

動物実験計画審査結果

動物実験責任者

所属 農学部 獣医学科

職名 助教

氏名 阿野仁志 殿

宮崎大学長

菅沼龍夫

申請番号 2010 - 027 -

1. 動物実験課題名

獣医内科学実習 I

2. 実験期間

平成 22 年 8 月 2 日 ~ 平成 23 年 3 月 31 日

- 計画書通り承認します。(以後、申請番号を承認番号とします。)
 承認には計画の変更が必要であり、判定を保留します。
 実験計画は承認できません。

委員会からの意見

備考

(様式1)

動物実験計画書(新規・変更)

宮崎大学 学長 菅沼 龍夫 殿

22年6月11日

動物実験責任者

申請番号

2010-027

所属(学部学科) 農学部獣医学科

職名 助教

内線番号 7959

氏名 阿野 仁志



1. 動物実験課題名(具体的に記入してください。)

獣医内科学実習I

2. 実験期間 開始予定 承認日、終了予定 2011年3月31日

3. 動物実験実施者(実験責任者、飼養者等を含む動物実験に関わる全ての者の所属、職名、氏名を記入してください。)

氏名	所属	職名等	教育訓練受講履歴
阿野 仁志	農学部獣医学科	助教	2007-2木花
片本 宏	農学部獣医学科	教授	2007-2木花
獣医学科4年生 29名	農学部獣医学科		

4. 動物実験の目的(実験の具体的な手法ではなく、目的の概要がわかるように記入して下さい。)

視診、聴診、触診といった身体検査や神経反射検査、薬物負荷や採血による機能検査を行い、獣医内科学実習における検査の手技や動物の取り扱い等を実際に対象とする犬を用いて習得する。

5. 使用動物種	系統	微生物学的品質	上記実験期間中使用予定頭数	導入元
犬		コンベンショナル	2頭	

使用動物数の算出根拠

学生実習に供するために必要な最小頭数とした。

遺伝子改変動物の導入 有(国内譲渡・国際譲渡) 無
譲渡元:
改変遺伝子名:

6. 使用施設(飼育場所、実験場所にわけて記入。)
飼養管理施設 獣医学科屋外動物舎
実験室 動物病院棟小動物実習室

7. 倫理的基準に基づいた動物実験の分類(カテゴリー)

- A:生物個体を用いない実験、あるいは微生物を用いた実験。
 B:脊椎動物を用い、動物に対してほとんどあるいはまったく不快感を与えないと思われる実験。
 C:脊椎動物を用い、動物に対して軽度のストレスまたは痛み(短時間持続するもの)を伴うと思われる実験。
 D:脊椎動物を用い、回避できない重複のストレスまたは痛み(長時間持続するもの)を伴うと思われる実験。
 E:無麻酔下の脊椎動物に、耐えうる限界に近い、またはそれ以上の痛みを与えると思われる実験。

8. 特殊実験区分 (詳細を 9-(1) 欄に、 具体的な安全対策を 9-(2) 欄に記載)	<p>1. <input type="checkbox"/> 感染実験 安全度分類: <input type="checkbox"/> BSL1 <input type="checkbox"/> BSL2 <input type="checkbox"/> BSL3 (接種微生物) 2. 遺伝子組換え動物 <input type="checkbox"/> 作成実験 <input type="checkbox"/> 接種実験 (区分: <input type="checkbox"/> P1A <input type="checkbox"/> P2A <input type="checkbox"/> P3A) 3. <input type="checkbox"/> 放射性同位元素・放射線使用実験 (飼育場所:) 使用核種:) 4. <input type="checkbox"/> 化学発癌・重金属・環境汚染物質・毒劇物等投与実験 (投与物質名) 5. <input type="checkbox"/> 細胞等の生体材料移植・接種実験</p>
9-(1) 動物実験の方法 (該当項目にチェックを入れ、その内容を書式に従って具体的に記入してください。)	
<p>■ 薬物等投与 A. 使用薬物のカテゴリー: 発ガン物質・毒劇物・その他 [] 投与薬物等の具体名 [イオタラム酸(造影剤)] B. 投与部位: 腹腔内・血管内・皮下・脳室内・その他 [] C. 投与方法 [注射・留置カテーテル・その他]</p>	
<p><input type="checkbox"/> 細胞等生体材料移植・接種 A. 使用生体材料: [名称:] 由来: [] B. 移植部位・方法: [] C. 細胞株の微生物汚染: <input type="checkbox"/> あり (汚染微生物名 [])、<input type="checkbox"/> なし、<input type="checkbox"/> 不明 *移植細胞等に安全管理上または医療倫理上の問題がある場合は 13 欄に内容を記入して下さい。</p>	
<p><input type="checkbox"/> 抗体作成: 抗原: []、使用アジュバント: [] <input type="checkbox"/> 感染実験: 感染微生物名: []、微生物の遺伝子組換え [有・無] レシピエント動物の遺伝子組換え [有・無]</p>	
<p><input type="checkbox"/> 外科的処置: 処置法: [] <input type="checkbox"/> ストレス負荷: A. 負荷方法: [] B. 負荷期間: [<input type="checkbox"/> 時間・<input type="checkbox"/> 日間・<input type="checkbox"/> 月間・<input type="checkbox"/> 年間]</p>	
<p><input type="checkbox"/> 遺伝子操作動物作成実験・<input type="checkbox"/> 遺伝子操作動物接種実験 <input checked="" type="checkbox"/> 材料採取: [血液採取] <input type="checkbox"/> 放射線照射 <input checked="" type="checkbox"/> その他: [視診、聴診、触診による一般身体検査、神経反射検査]</p>	
(2) 実験方法を、処置を行う部位・内容・実験手順がわかるように具体的に記入してください。 一般身体検査: 視診、聴診、触診による一般身体検査による全身状態の評価 神経学的検査: 歩行、姿勢反応、打診による神経反射検査 腎機能検査: イオタラム酸(造影剤) 静脈内投与後の血中からの排泄を経時的に測定することによる腎機能評価 血液検査: 静脈血採血による血液一般検査 皮膚病検査: ウッドランプ法、皮膚搔爬試験、細胞診、毛髪診、アレルギー検査	

10. 動物実験が必要な理由	
<p>(1) 動物を使用しない他の実験法(代替法)を採用しない理由。 生体でなければ身体検査、反射検査、臓器機能検査、採血および血液検査は不可能である。</p>	
<p>(2) 本実験で使用する動物種を選択した理由。 小動物臨床実習として主な対象となる動物種である。</p>	

11. 実験処置後、実験終了まで当該動物が生存する期間(処置ごとに記入してください。)		
動物種/系統	処置方法	生存期間
犬/	採血、静脈注射	<input checked="" type="checkbox"/> 当該せず · <input type="checkbox"/> 時間・日間・月間・年間 <input type="checkbox"/> 当該せず · <input type="checkbox"/> 時間・日間・月間・年間

12. 動物が被る苦痛と苦痛軽減の方法

(1) 苦痛の種類・程度を、実験操作時とそれ以降の実験期間(動物の生存期間)とに分けて、具体的に記入してください。
・実験操作時に予想される苦痛

採血：犬の採血は日常行われている行為であり、保定によるストレスはごく短時間(約1分間)である。
神経反射検査：採血：犬の神経反射検査は日常行われている行為であり、反射のための打診もほとんど痛みを伴わないものである。

腎機能検査：静脈内投与する薬物は通常診断用として静脈内投与が認められている薬物であり、それ自身で障害を引き起こす可能性は低い。

皮膚病検査：皮膚搔爬試験でわずかに毛細血管から微量の出血がある程度で、日常的に行われる検査である。
・操作後の生存期間に予想される苦痛

ほとんど苦痛は無く、持続するような痛み等も無い。

(2) 苦痛軽減の方法

A. 実験操作時、直後の苦痛軽減法

■ 材料採取等のみの実験計画で、本項に該当しない。

摂食・歩行状態等の行動から大きな苦痛を感じていないと判断でき、特に処置を講ずる必要がない。

麻酔薬を投与する。[薬品名] 投与量 [] 投与経路 []

鎮痛薬を投与する。[薬品名] 投与量 [] 投与経路 []

抗生物質等 [薬品名] 投与量 [] 投与経路 []

動物が耐えがたい痛みを伴う場合、適切な時期に安楽死措置をとるなどの人道的エンドポイントに考慮する(C欄に記入)。

■ その他 [保定、採血の回数が多くなる場合には動物のストレス軽減のため鎮静処置を行った上で実習に供する。]

苦痛があるが、その軽減を行わない(C欄に記入)。

B. 実験操作後、経過等を観察する必要がある場合、その期間中の苦痛軽減法

■ 実験計画の内容が本項に該当しない。

摂食・歩行状態等の行動から大きな苦痛を感じていないと判断でき、特に処置を講ずる必要がない。

鎮痛薬を投与する。[薬品名] 投与量 [] 投与経路 []

抗生物質等 [薬品名] 投与量 [] 投与経路 []

その他 []

苦痛はあるが、その軽減を行わない。(C欄に記入してください。)

C. 苦痛軽減を行わない場合は、動物が受ける苦痛の大きさと実験の意義を具体的に記した上で、苦痛軽減を行わない。 理由を、人道的エンドポイントを設定した場合は、その具体的な内容をそれぞれ記載してください。

(3) 安楽死と死体処理の方法

A. 安楽死の方法

麻酔薬 [薬品名] [] の過剰投与

顎椎脱臼 []

その他 [具体的に] []

■ 安楽死させない。[理由] []

B. 死体の保存と処理

生物資源分室で冷凍保存し、同分室に焼却を依託する。

[] で冷凍保存し、農学部焼却炉で焼却する。

■ その他 [本実習では死体は出ない]

13. その他
必要または参考事項 (飼養保管施設・実験室の承認状況に加えて、過去の動物実験計画書承認実績、学内の関連委員会(組換え等)への申請状況なども適宜記入。)

■ 項目6に記入した飼養保管施設は、宮崎大学学長の承認を受けた施設である。

■ 項目6に記入した実験室は、宮崎大学学長の承認を受けた施設である。

遺伝子組換え実験安全委員会、□医の倫理委員会、□その他()に申請済み 承認番号()

■ その他特記事項(具体的に記入) 登録日、狂犬病予防接種日: 平成22年4月30日

承認を受けた実験内容を変更する場合、本書式に経過報告書を添えて変更申請を行って下さい。
また変更前後の記述内容をまとめた書式(様式自由)を添付して下さい。

受領日 22.7.26

審査結果返答日